

2023

経済・経営  
人文・法学部

現代社会問題

解答はすべてマーク式で解答用紙に記入して下さい。  
解答用紙のみ提出して下さい。

2023年2月9日(木)実施

マーク式解答用紙記入上の注意

- [1] 解答用紙はすべて**HBの黒鉛筆**で記入して下さい。(万年筆・ボールペン・シャープペンシルなどは使用できません。)
- [2] 解答用紙は折りまげたり、破ったり、汚したりしないで丁寧に取り扱いして下さい。
- [3] 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- [4] 氏名を記入して下さい。
- [5] 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークして下さい。
- [例] 受験番号が0010123のときは

氏 名
鈴木一郎

受 験 番 号						
0	0	1	0	1	2	3
①	①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨

- [6] 解答科目欄から**解答する科目**を1つ選び、科目の右の○にマークして下さい。マークされていない場合、または複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
- [7] 解答番号は  から  まであります。

マークの記入方法は、例えば、 と表示のある問に対して③と解答する場合は、次の[例]のように**解答番号10の解答欄に③**とマークして下さい。

[例]

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

- [8] 一度記入したマークを訂正する場合、消しゴムで**完全に消してから**記入しなおして下さい。
- [9] 解答がおわったら、解答用紙に付着している消しゴムの消しくずをきれいに**取り除いて**下さい。

(注) ① と ② のマーク間違いに注意して下さい。

1 次の文章を読み、設問に答えよ。(解答番号  ～ )

18世紀後半から19世紀はじめのイギリスでは、毛織物産業の発展や貿易による富の蓄積などを背景に( 1 )が起こった。( 1 )は、単に生産技術にとどまらず、経済システム、ひいては社会のあり方をも変えた。繊維や製鉄などにおける新技術の発明と改良は、マニファクチュアから( 2 )への生産方式の転換をもたらした。この結果、大量生産が可能となり、生産手段の所有者としての資本家と、( 3 )を商品として提供する労働者との階級が分化して、資本主義経済<sup>(a)</sup>が確立していった。( 1 )は、やがてフランス、アメリカ、ドイツ、日本にも波及し、19世紀には第二次( 1 )<sup>(b)</sup>とよばれる新しい技術革新の波がわき起こり、経済は飛躍的に発展した。

一方で、資本主義経済のもとでは( 3 )が市場で取引されるため、労働問題が生じることとなった。労働者と資本家は、( 3 )の売り手と買い手の関係にあり、その売買にあたっては、対等な関係で労働契約を結ぶ自由がある。しかし現実には、労働者は雇用されないと生活ができないという不利な立場にある。このような労働者の弱い立場を改善し、地位の向上を目指した運動を労働運動という。労働者は、孤立した個人としては無力であるが、労働組合を結成することで資本家と交渉が可能となり、労働条件の改善や労働者としての権利を獲得していった。

日本では第二次世界大戦後、( 4 )を進める過程で財閥解体・農地改革と合わせて労働三法<sup>(c)</sup>が制定されるとともに、日本国憲法では労働基本権<sup>(d)</sup>が規定され、労働組合の結成が認められた。そして、戦前とは異なって企業別労働組合が定着し、終身雇用制と年功序列型賃金とともに日本的雇用慣行<sup>(e)</sup>と呼ばれた。しかし近年、産業構造の高度化<sup>(f)</sup>や非正規雇用の増大など、労働組合を取り巻く環境は一変し、組合組織率は低下している。こうした労働環境や雇用慣行の変化<sup>(g)</sup>に対応した労働組合の今後のあり方が問われている。

設 問

1) 空所( 1 )に入れるのに最も適当なものを、選択肢から1つ選べ。

- ① 産業革命      ② 景気変動      ③ 市民革命      ④ 国際分業      ⑤ I T革命

2) 空所( 2 )に入れるのに最も適当なものを、選択肢から1つ選べ。

- ① 傾斜生産方式      ② 工場制機械工業      ③ 社会的分業  
④ アウト・ソーシング      ⑤ 流れ作業方式

3) 空所( 3 )に入れるのに最も適当なものを、選択肢から1つ選べ。

- ① 公共財      ② 余暇時間      ③ 生産財      ④ 財貨      ⑤ 労働力



8) 下線部分(d)について、その説明として**不適当なもの**を選択肢①～④から1つ選ぶか、⑤を選べ。

- ① 日本国憲法は第 27 条で勤労権を、第 28 条で労働三権を認めている。
- ② 労働三権とは、団結権、団体交渉権、団体行動権(争議権)の 3つの権利を意味する。
- ③ 公務員については、労働基本権が制限されている。
- ④ 勤労権に対する国の施策として、職業安定法に基づく公共職業安定所での職業紹介がある。
- ⑤ ①～④はいずれも正しい。

9) 下線部分(e)について、その説明として**不適当なもの**を選択肢①～④から1つ選ぶか、⑤を選べ。

- ① 年功序列型賃金とは、終身雇用を前提として勤続年数に応じて上昇する定期昇給制のことである。
- ② 日本型雇用慣行では、業務の上で必要な知識や技能をOJTによって修得させ、役立つ人材を育成することが多い。
- ③ 企業別労働組合とは、職種ごとに組織された組合である。
- ④ 終身雇用制とは、戦前からの慣行が定着したものであり、いったん企業に雇用されると、自己都合で退職しない限り定年まで働くことができることを意味する。
- ⑤ ①～④はいずれも正しい。

10) 下線部分(f)について、経済発展が進むと、第一次産業から第二次産業、そして第三次産業へとその比重が増大する傾向は先進国に共通してみられることを説明した語句として正しいものを、選択肢から1つ選べ。

- ① 需要・供給の法則                      ② 経済のソフト化                      ③ ペティ・クラークの法則
- ④ 輸入代替工業化                      ⑤ 産業の空洞化

11) 下線部分(g)について、その説明として**不適当なもの**を選択肢①～④から1つ選ぶか、⑤を選ぶ。 

11
----

- ① 年俸制などの成果主義的な賃金制度が拡大している。
- ② サービス残業が常態化し、長時間労働や激務を原因とする過労死などの労働災害が深刻な問題となっている。
- ③ 労働者派遣法が数回にわたって改正され、これまで特定の職に限って認められていた派遣労働が、製造業を含む広範な職種に拡大された。
- ④ 増加する傾向にある外国人労働者との紛争解決のため、2004年に労働審判法が制定された。
- ⑤ ①～④はいずれも正しい。

2 次の文章を読み、下線部分が正しいものには①、不適当なものには②をそれぞれ選び、指定した解答番号欄にマークせよ。(解答番号 12 ~ 41 )

1) 国家は様々な形態を持つが、近代的民主主義国家は、王権を制限し、市民が自らの権利を守るための理論から発展して現代に至る。この理論を社会保障 12 という。理論の提唱者は様々であるが、著書『社会契約論』で国民主権と直接民主制を主張したルソー 13 や、著書『法の精神』で議会制度を正当化し革命権思想を説いたロック 14 などが著名である。

現在、世界には約 200 弱の国家が存在する。それぞれの国家は三要素とよばれる領域、主権、国民 15 をもつ。なお、領域とは、領土、領海、領空 16 の総称である。国際社会は、これら国家を単位として成立しており、世界を統治する権力はない。国家はそれぞれ自国の利益を追求するため、ときに友好を結び、ときに対立する。国際法は、これら国家間の関係を調整し、国際社会を規律するためのもので、条例と国際慣習法 17 からなる。

2) 第二次世界大戦以降、1989 年までを冷戦 18、あるいは東西対立の時代とよぶ。資本主義を標榜するアメリカ陣営と、社会主義・共産主義を標榜するソビエト陣営は激しく対立し、代理戦争ともよばれる局地紛争がしばしば発生した。例として1950 ~ 53 年の朝鮮戦争 19、1962 年のパレスチナ紛争 20 などがあり、特に後者は核戦争の一步手前にまで至ったといわれている。またこの対立を背景として、ドイツ 21、ユーゴスラビア 22、およびベトナム 23 などで国家が 2 つに分断された。

これとは別の争いも生じた。石油資源は、第二次世界大戦以前は国際石油資本とよばれる欧米企業が支配していたが、その後産油国が石油輸出国機構(O A P E C)を結成して 24、これに対抗した。その背景には自らの手で天然資源を管理、開発しようとする資源ナショナリズム 25 の影響がある。しかしその後 1973 年および 79 年に原油価格の大幅値上がりを招き、世界経済に大きな混乱をもたらした。これを湾岸戦争 26 という。

日本は、1951 年の独立回復以降、他国と直接の戦火を交えていないが、2021 年時点で、ロシアとの間の北方領土問題 27、北朝鮮との間の竹島問題 28、中国との間の南沙諸島問題 29 などの領域紛争・摩擦を抱えている。

3) 日本国憲法で明記されている自由権規定は、精神の自由、人身の自由、経済の自由などに大別される。

このうち精神の自由には学問の自由 30 , 検閲を受けない自由 31 , 集会・結社の自由 32 などが含まれる。

人身の自由には正当な手続きなしでは刑罰を科せられない規定 33 や弁護人を依頼する権利 34 , 思想・良心の自由 35 などが含まれる。

経済の自由には生存権(健康で文化的な最低限度の生活)の保障 36 や職業選択の自由 37 , 居住・移転の自由 38 などが含まれる。

また、これらとは別に日本国憲法に明記されていない「新しい人権」も主張されている。主なものとして環境権 39 やプライバシー権 40 などがあり、根拠は主に第14条の平等権規定 41 による。

3 次の文章を読み、設問に答えよ。(解答番号  ～ )

人間は、自然とかかわりあいながら集団生活を営むなかで、より豊かに生きるために、共通の考え方や生活の様式を身につけ、さまざまな文化をつくりあげてきた。日本においても、古代から現代にいたるまで、人々は日本の伝統思想や文化を発展させてきた。

江戸時代以降の日本において、仏教や儒教の教えの影響を受ける前の日本古来の人間性について、古典の視点から探求した学問が( 1 )である。『万葉集』を研究した( 2 )は、『万葉集』にみられる男性的でおおらかな歌風を「ますらをぶり」とよんだ。また、『古事記』や『源氏物語』を研究した( 3 )は、古代の人がもっていた「まごころ」や「もののあはれ」を重視した。

20世紀以降には、日本と西洋における文化について、アメリカの文化人類学者( 4 )が著書『菊と刀』のなかで、日本人の文化を恥の文化、キリスト教にもとづく西洋文化を罪の文化として特徴づけた。一方で、和辻哲郎は著書( 5 )のなかで、それぞれの地域に生活する人間のあり方や文化の特性を示した。さらに、レヴィ・ストロースは、未開とよばれている社会の思考は、西洋近代の科学的思考法と比べて劣るわけではないことを指摘した。

現代社会において、人々は異なる文化、宗教、習慣のもとで生活しており、自らの文化を尊重するという精神は、他者の文化を尊重するという精神につながらなければならない。自らの文化を基準として、ほかの文化を否定したり、低く評価したりする( 6 )は、紛争を引き起こす原因となりうる。互いの文化の違いを認め合い、社会のなかで複数の文化がそれぞれ対等に共存することをめざす( 7 )の考え方は、グローバル化が進行するなかでさらに重要度を増すだろう。

設 問

1) 空所( 1 )に入れるのに正しいものを、選択肢から1つ選べ。

- ① 朱子学      ② 古学      ③ 蘭学      ④ 国学      ⑤ 古文辞学

2) 空所( 2 )( 3 )に入れるのに正しいものを、選択肢からそれぞれ1つ選べ。

( 2 ):       ( 3 ):

- ① 伊藤仁斎                      ② 荻生徂徠                      ③ 中江藤樹  
④ 本居宣長                      ⑤ 佐久間象山                      ⑥ 賀茂真淵

3) 空所( 4 )に入れるのに正しいものを、選択肢から1つ選べ。

- ① ベネディクト                      ② ハーバーマス                      ③ レヴィン  
④ アリエス                      ⑤ マーガレット・ミード



4) 空所( 5 )に入れるのに正しいものを、選択肢から1つ選べ。 46

- ① 『善の研究』                      ② 『古代研究』                      ③ 『風土』  
④ 『遠野物語』                      ⑤ 『西洋事情』

5) 空所( 6 )( 7 )に入れるのに正しいものを、選択肢からそれぞれ1つ選べ。

( 6 ): 47      ( 7 ): 48

- ① リベラリズム                      ② マルチカルチュラリズム  
③ アニミズム                      ④ カウンターカルチャー  
⑤ サブカルチャー                      ⑥ エスノセントリズム

6) 下線部分(a)に関する記述として、**不適當なもの**を選択肢①～④から1つ選ぶか、⑤を選べ。

49

- ① 古代日本の人々は、八百<sup>や</sup>万<sup>およろず</sup>の神をまつる多神教であった。  
② 日本はさまざまな外来文化を受容しながら、重層的文化を形成してきた。  
③ 古代日本の人々は、嘘と偽りがなく、何も包み隠さず、飾るところのない清明心を重んじた。  
④ 古代日本の人々は、共同体に災いをもたらす行為や、災害や病気などをツミやケガレとよび、祓<sup>はら</sup>いや禊<sup>みそぎ</sup>によって浄化しなければならないと考えた。  
⑤ ①～④はいずれも正しい。

7) 下線部分(b)に関する記述として、**不適當なもの**を選択肢①～④から1つ選ぶか、⑤を選べ。

50

- ① 文化相対主義の立場から、ヨーロッパ中心主義の考えを批判した。  
② 南米の諸部族の研究を行った、フランスの文化人類学者である。  
③ 近代の西洋社会は、狂気や犯罪という反理性的なものを人々の日常生活から封じこめてきたと主張し、『狂気の歴史』を著した。  
④ 人間の社会や文化にはそれ自体で独立した「構造」があり、人間はその「構造」のなかにはめこまれていると考えた。  
⑤ ①～④はいずれも正しい。

8) 下線部分(c)について、世界三大宗教の組み合わせとして正しいものを、選択肢から1つ選べ。

51

①	仏教	キリスト教	ヒンドゥー教
②	仏教	キリスト教	イスラム教
③	イスラム教	仏教	ヒンドゥー教
④	イスラム教	ユダヤ教	ヒンドゥー教
⑤	キリスト教	ヒンドゥー教	ユダヤ教
⑥	キリスト教	イスラム教	ユダヤ教

9) 下線部分(d)に関する記述として、これまでさまざまな原因によって引き起こされた紛争のうち不適当なものを選択肢①～④から1つ選ぶか、⑤を選べ。 52

- ① ユーゴスラビアでは、連邦を構成する共和国が独立を宣言し、激しい内戦の過程で民族浄化(エスニック・クレンジング)が起こった。
- ② パレスチナ問題では、ユダヤ人がイスラエルを建国した際に、アラブ人の多くが土地を追われ難民となった。
- ③ アフリカのルワンダでは、紛争が集団虐殺(ジェノサイド)につながった。
- ④ チェチェン紛争では、チェチェン共和国が独立を表明し、この独立を認めないロシアとの間で武力衝突が起こった。
- ⑤ ①～④はいずれも正しい。